

腫瘍センターが新棟へ移転

平成25年10月より、腫瘍センターが外来新棟1階へ移転しました。今までは別々の場所にあった腫瘍センターの各部門ですが、この度の移転で「腫瘍センター」「外来治療センター」「緩和ケア」「がん相談支援室」「がんサロン」が一箇所に集約されることとなりました。

このフロアには、「地域医療連携福祉センター」も一緒に引っ越しをしてきており、腫瘍センターと地域医療連携福祉センターが、実際に、距離的にも近くで活動が可能となり、今まで以上に密な連携が可能となりました。

今回はそれぞれの位置と様子をご紹介します。



外来治療センターの様子…ベッド11床(個室3床)、リクライニングチェア9床。全ベッドに医療情報端末・アーム付テレビ・荷物用ワゴン・読書灯を装備。個室1室は将来的な小児対応も踏まえたデザインになっている。



小児がん拠点病院の指定

《小児がん拠点病院とは》

本邦では年間 2000~2500 人が小児がんを発症し、その地域で診療を受けているのが現状です。それほど多くはない患者さんを全国で 200 ほどの施設で分散して診療していることは、質の高い総合的な医療が必要な小児がん診療体制として適切なのだろうかという懸念が以前から指摘されていました。小児がんの診療にはある程度の集約化と均てん化が必要だと言う考えです。このような背景から厚生労働省は平成 24 年 9 月の「小児がん拠点病院の整備について」という健康局長通知に基づき、全国を7ブロックに分けて小児がん拠点病院を公募しました。

《指定までの経緯》

上記の公募に対し、全国から北大病院を含めた 37 施設の申請がありましたが、必須の要件(診療実績、小児がんの専門職、ブロック内・外の連携体制、患者支援、研修体制など)によって書類選考され、22 施設がヒアリング対象となりました。ヒアリングは 9 名の評価委員が関連 10 項目を 5 点満点で評価しました。その結果、北大病院を含めた 15 施設が選定されました。北大病院は平均 4.05 点でした。

北海道大学病院は、平成25年2月8日、「小児がん拠点病院の整備について」(平成24年9月7日付け健発0907第2号厚生労働省健康局長通知)に基づき、小児がん拠点病院として指定されました。指定の期間は、平成25年2月8日から平成29年2月7日までの4年間です。

また、この指定を受け、北海道大学病院において小児がんチームを腫瘍センター内組織の「診療」の部に位置づけることが決まりました。

《今後の課題》

ヒアリングの評価 10 項目のうち、4 点未満は、緩和ケア、研修の実施体制、その他特記事項(連携体制、フォローアップなど総合評価)であり、改善の参考としたいと考えます。指定を受け、北大病院では福田前院長の指導のもと、院内の体制整備に向けた施設の整備、人員の増員、組織の整備などの方針と運営内規を迅速に決定しました。今後、寶金病院長のもと北海道ブロックで唯一の小児がん拠点病院としてより充実した診療を目指したいと考えます。最後に、指定を受けるための準備作業に携わっていただいた多くの関係者へ謝意を表し、拠点病院としての事業のご理解とご協力を皆様にお願いたします。

看護師向け研修会ELNEC-Jを初実施

「北海道大学病院 腫瘍センター ELNEC-J
(The End-of-Life Nursing Education Consortium-Japan)」

6 月 25~26 日の 2 日間にわたって、18 医療機関 36 名の看護師を対象に第 1 回北海道大学病院 腫瘍センター ELNEC-J を開催いたしました。

ELNEC は、エンド・オブ・ライフ・ケア(EOL ケア)や緩和ケアを提供する看護師を対象とした包括的な教育プログラムです。このプログラムは各国で翻訳され普及しており、日本の現状に合わせて修正したものが ELNEC-J です。道内の緩和ケアに関わる看護師が講師を担当し、研修内容は 10 のモジュールから構成されており、グループディスカッションやロールプレイを取り入れ、エンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアの実践に役立つ内容になっています。

今まで、本院では、厚生労働省で定めるプログラムに準拠した「緩和ケア研修会」と、その緩和ケア研修会を修了した方を対象とした「緩和ケア追加研修会」の2種類の緩和ケア研修会を実施して参りましたが、看護師のみを対象とした本 ELNEC-J を開催するのは初めての試みでした。

研修は、講義を基に臨床での疑問を話し合い、事例を通じてのグループワークでは思考のプロセス、合意形成の重要性、プレゼンテーション能力を高められたのではないかと思います。そして、研修終了時には、今後の緩和ケアを実践していくにあたり各自の 1 年後の到達目標が話し合われました。

実際に本院で受講された方が、臨床に戻り慣例として行っていたケアを、患者さんやご家族の方の視点で考えた時、どうあるべきかを考え、「今できる緩和ケア」を提供するために、周囲の医療者と話し合いケアの見直しを行うという変化が生まれていました。

初めての ELNEC-J 開催でしたが、緩和ケアを担う看護師の実践につながる教育プログラムであると実感しております。平成 26 年度も 7 月 26、27 日で開催を予定しておりますので緩和ケアの実践力を高めたいと考えている看護師の皆さんは、ご参加ください。



研修会・講演会のお知らせ

- ★市民公開講座
 - 11月24日(日)(学術交流会館)
「乳がん市民公開講座」
 - 11月30日(土)(学術交流会館)
「胃がん・食道がんについて知ろう! —最新の診断・治療—」
(申込は締め切りました)
- ★外来がん治療研修会
 - 11月28日(木)~29日(金)(腫瘍センターカンファレンスルーム)
(申込は締め切りました)
- ★腫瘍センターセミナー
 - 12月19日(木)(会議室棟 症例検討室1)
「痛みと鎮痛の基礎知識」
①オピオイドの使い方(緩和ケアチーム 田巻 宏知)
②神経ブロック(緩和ケアチーム 敦賀 健吉)

ご意見ご感想などはこちらまで・・・
医事課医療支援室地域医療連携係
Email:itiiki@jimu.hokudai.ac.jp

